

ハマの屋台PJ

- 横浜においての屋台を使ったまちづくりを考える -



移動式屋台を使ったまちの賑わいづくりの研究

①背景・目的

私たちはまちのにぎわいを生み出すツールとして、移動式屋台「ほどわごん」を提案し、屋台制作とその運用を行なってきました。大学周辺の常盤台地区、相鉄線南万騎が原駅周辺を活動エリアとして、それぞれのエリアで求められる屋台を使ったまちづくりの形を研究しています。

②活動内容の概要

保土ケ谷区の「ほどわごん」、南万騎が原エリアの「みなまきわごん」では制作した屋台を使ったイベントの実施、屋台の需要に合わせたリニューアル、まちの人へ屋台の貸し出しを行いました。今年度はそれに加えて関内駅近くの大通り公園で活用する移動式屋台の制作に向けて活動を進めてきました。大通り公園の活用・運営について考えられている方やそこで活動をされている方に対して模型やスケッチを使い、屋台の具体的なイメージを提案しました。提案に対するみなさんからのフィードバックを踏まえ、大通り公園に求められる機能やまちのあり方を考えながら3月末完成を目指し現在制作を進めている最中です。

③今後の可能性

屋台制作は作るだけでなく、使い続けることを考えていかなければなりません。みなまきラボでのみなまきわごんも住民の方との自発的な運用に向けて活動を行なっています。今までの経験を踏まえ、大通り公園で制作する新しい屋台ではマネジメント体制の構築も視野に入れて進めていきたいと考えています。

■学生：8名（氏名高橋亮、若原歩花、高橋健、菊池優太朗、坂口綾、的羽佑菜、御園茜、北英之/ 担当教員：野原卓准教授） ■連携・協力：みなまきラボ運営委員会（相鉄グループ、横浜市、横浜国大、オンデザインほか）、常盤台地区連合町内会、みなまきラボ、処デザイン学舎

■サイト：<https://twitter.com/hamanoyatai>